

令和5年5月15日

学校法人育英館 四万十看護学院

学校関係者評価委員会

令和4年度学校関係者評価委員会報告書（案）

令和5年3月24日に開催された委員会の討議に基づく検討課題と改善に向けた取り組みについて評価結果をまとめた。

1. 国家試験合格率について

保健師助産師看護師法（昭和23年法律第203号）第18条の規定により、第112回看護師国家試験（以下、看護師国家試験という。）が、令和5年2月12日に実施された。今次看護師国家試験において、全国では新卒受験者58,911名に対し、合格者56,276名（合格率95.5%）であった。

本校、新卒業生の受験結果は、別表1のように100%であった。開学時以来、新卒学生の合格率は年度を重ねるごとに改善の傾向にあり、最終的に今次の結果に及んだものと推測される。

（学校関係者評価委員からの意見）

学生自身の努力、学生の精神面、身体面への配慮をしつつ熱心に指導された常勤教員らの取り組みに敬意を表したい。その一方で、学生全般への学校としての支援、取

り組みについて説明を求めたい。さらに既卒学生についての学校としての支援、取り組みについて説明を求めたい。

(学校としての対策)

3年課程の養成期間のうち、1年次から学習と実習の意識づけ、3年次後期には看護師国家試験の受験勉強に専念できるよう配慮をしている。ここ3年間はコロナ禍であり、電話やリモートを積極的に活用し、国家試験対策講座の受講を入学後早期から開始している。模擬試験の結果が不振な学生には、3年担当の常勤教員が、学生個別にサポートを実施。学習方法や日常生活の過ごし方、不安に感じていること等、丁寧な聞き取り及び指導を行ってきた。

既卒学生への対応についても同様である。模擬試験の結果と、あわせて各学年の看護師国家試験対策委員会とともに問題及び課題、指導方法について対応を検討したうえで、個々の学生が苦手とする分野を担当する常勤職員と情報共有し、苦手分野克服のために学習支援を重層的に実施してきた。また、コロナ禍であったものの、リモートを積極的に活用し、精神的なサポートを丁寧に対応した。

2. 受験者数と入学者数、及び3年間の卒業率について

別表2・3のとおりである。合格者数、入学者には大きな変化がみられない。卒業率については、例年平均して86%台であったが、令和2年度は65%と大きく変化している。

(学校関係者評価委員からの意見)

令和元年度学校関係者評価委員会報告書によると、当時は「学年によってクラスの雰囲気は異なります。1学年・2学年の各クラス運営では、人付き合いの苦手な学生にもクラス内に居場所を確保できるよう、学生間で配慮する等、自主的に取り組んでいる。また、クラス担任が度々面談を行い、きめ細やかな対応に努力している。」と記述されている。卒業率の大きな変化を、本校ではどのように捉えているか。

(学校としての対策)

例年通りの対応を行ってきたが、結果として卒業率が平均して大きく下がったという理解です。新たな対策をどのように講じていくかは、これからの本校の課題となると考えています。

3. 卒業年度別就職率（卒業時）について

別表3のとおりである。年々就職活動が早期化し、就職を意識した面接・小論文対策に注力している。

(学校関係者評価委員からの意見)

ほとんどの学生が看護師として就職しているが、それ以外の学生についてはどのような分野に就職しているのか。

(学校としての対策)

医療分野にほぼ全員が就職している。